

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 1 日

事業所名 きらり中庄

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		活動内容により別の部屋を借りたり人数が多くて危険な時には分けたりしている。	引き続き、安全に過ごすことが出来るように環境設定を行っていく。
	2 職員の配置数は適切である	4	2		職員の数としては、決められた人数はいる。職員の質を上げていく必要はあると感じる。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		遊ぶ場所によってマットや衝立で区切っている。	お子さんにとって分かりやすい環境設定を行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1	毎日の消毒や清掃、普段から綺麗な状態を保てるよう配慮している。	日々の消毒や清掃を引き続き行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		意見を参考にしている。	保護者の方からの直接のご意見だけでなく、日ごろの会話の中からも保護者の方の思いに寄り添うことを心がける。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		外部研修への補助金が出ている。	法人内部の研修だけでなく、外部の研修案内も職員へは伝えていくよう、引き続き取り組む。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	1	職員間で話し、ニーズや児の様子、園での様子も参考にし立案はしている。	複数の職員の意見を参考に個別支援計画等を立案していく。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		書式はあるがアセスメントを迅速かつ速やかに行うことが課題である。	モニタリングからプラン作成への流れに沿って、アセスメントを行うことを強化していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	1	職員間で共有し意識して関わっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		年間で立てているが児の様子に合わせて変更もしている。	今後もお子さんの姿に合わせて適宜変更を行いながら運営していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		様々な職員の意見をとりいれている。	職員間で意見を出し合いながら子供に合った活動を提供していくことを心がける。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1	常にあっているのか疑問を持ちながらも作成している。	
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	・毎日継続して行うことが課題である。 ・朝の準備で時間が終わる	・朝の準備内容などを見直し、受け入れ前に打ち合わせが出来る体制を作る。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	全職員が話しやすい環境、雰囲気、場づくりをしていないと感じる。	・振り返りの場として職員が集る時間を作っていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	1	行事(クリスマス会)や保育園の活動に参加させて頂いていた。	同敷地内の児童発達支援センター、保育園と共に活動をしていく機会を作る。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時や連絡帳にてやりとりし共有している。密な保護者と関わりが少ない保護者もおりどの保護者とも関わるとより改善すると考える。	・利用児者に関わる職員としてのスキルアップに取り組む。
保護者への	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6			
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		送迎時や連絡帳を活用している。相談に応じで懇談も実施している。	定期の懇談以外にもお子さんや保護者の状況に合わせて引き続き懇談を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	茶話会はあるが、保護者同士の関わりは薄い。	・年間計画、親子活動の中での茶話会を実施し、保護者同士の繋がりを作っていくことが出来るようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	1		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	3	確認不足もあったため、改善する必要あり。	保護者の方から頂いた書類については、必ず複数の目で確認し、既往歴等見落としがないようにしていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。